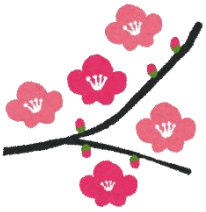
黄藍の風

学校評価報告特別号

令和７年度　金沢市立長町中学校　学校便り

― 後期学校評価および授業アンケートの結果報告 ―



日差しに春の気配が混じる季節となりました。
保護者の皆様には、先般の学校評価アンケートに多大なるご協力をいただき、心より感謝申し上げます。本校では、生徒・保護者・教職員の三者による「学校評価」と、生徒による日々の授業の質を問う「授業アンケート」の結果を分析いたしました。
本号では、アンケートから見えた本校の強みと、改善すべき課題についてご報告します。

Ⅰ　授業アンケート結果から見る「本校の成果」

後期授業アンケート（全教科計）では、全体として **90%を超える高い肯定感**が得られました。

2025 後期授業アンケート(全教科計)

４　そう思う　　３　どちらかといえばそう思う　　２　どちらかといえばそう思わない　　１　そう思わない

1 時間ごとに授業のめあて(課題)がわかった。

	4	3	2	1
1年	76%	21%	3%	0%
2年	66%	27%	6%	2%
3年	71%	25%	3%	1%
計	70%	25%	4%	1%

今年 95% 前期 95%　0%

2 自分の言葉で授業のまとめを書くことができた。

	4	3	2	1
1年	42%	47%	8%	3%
2年	57%	36%	5%	2%
3年	45%	44%	12%	0%
計	46%	43%	9%	2%

今年 89% 前期 90%　−1%

3 ペアやグループでの活動を通して、自分の考えを広めたり深めたりすることができた。

	4	3	2	1
1年	52%	39%	8%	1%
2年	71%	21%	5%	2%
3年	69%	26%	4%	1%
計	64%	30%	5%	1%

今年 93% 前期 95%　−2%

4 「わかる」「できる」を実感した授業であった。

	4	3	2	1
1年	48%	44%	4%	3%
2年	50%	38%	11%	2%
3年	66%	32%	2%	0%
計	56%	38%	5%	2%

今年 94% 前期 96%　−2%

- **学習の見通し（95%の肯定感）**「授業のめあて（課題）がわかった」という項目が極めて高い数値です。全校で目的意識の高い授業が展開されています。
- **メタ認知（自分の学びを客観視する力の育成 90%：前期比＋2%）**「自分の言葉でまとめを書く」ことについては、前期より数値が向上しました。「まとめが書けた」という実感は、「自分はこれを学んだんだ」という確信（メタ認知）に繋がり、学習の主体性を生みます。生徒たちが「受け身の授業」から「自ら整理する授業」へと変化していることが感じられます。
- **対話の質（93%の肯定感）**「ペアやグループでの活動を通して、自分の考えを広めたり深めたりすることができた」という項目はほとんどの生徒が、他者との関わりを自分の学びにプラスの影響を与えるものとして捉えています。また、対話が、多くの生徒にとって学習の脱落を防ぐ強力な支えになっていると思われます。
- **授業の理解度（93%の肯定感）**「『わかる』『できる』を実感した授業であった」という項目が高い数値です。一時間の授業が自分の力になっているという実感が強いことを示しています。授業の満足度を示していると思われます。

〈裏面につづく〉

2　改善すべき「課題」と今後の取り組み

高い評価の一方で、データからは「次の一歩」のために解決すべき課題も明らかになったととらえています。

・**【学習の見通し】に対する課題**

目標の「理解」から「自分事化」への深化　「めあてがわかった」という状態は、まだ教師から提示された目標を受け取った段階です。今後は、その目標に対して生徒自身が「今日はここまでできるようになりたい」という**個人のめあて**を立てるなど、より主体的な目標設定を目指します。

・**【メタ認知（まとめ)】に対する課題**

アウトプットの「質」の向上と学年差の解消「書く作業」で満足せず、自分の考えの変容をどれだけ深く言語化できるかという「記述の質」を高める支援を目指します。

・**【対話の質】に対する課題**

対話を通じた「納得解」の構築と自立の両立　「対話が楽しかった」という満足感で終わらせず、異なる意見を統合して一つの結論を導き出す「思考の粘り強さ」の育成を目指します。また、対話という支え（足場）を外した際にも、一人で考え抜くことができる「自立した学習者」の育成に努めます。

・**【授業の理解度】に対する課題**

授業内の「わかる」を家庭での「できる」へ繋げる定着力　場授業での理解が「長期的な定着」や「他場面での活用」に繋がることを目指します。まずは、授業での実感を、家庭学習での反復や、他教科での活用へと結びつけるサイクルを確立することに努めます。

3　後期学校評価において三者（生徒・保護者・教職員）の評価が一致して高い項目

・**「学校の楽しさ」**（生徒・保護者ともに高水準）「学校に行くのが楽しい」という生徒の肯定感に対し、保護者からも「楽しく通っている」という高い信頼を得ています。

・**「教職員の対応」**教職員アンケートでの「生徒理解」への自己評価と、保護者アンケートでの「学校の対応」への評価が合致しており、信頼関係が構築できていることが伺えます。

4　後期学校評価において三者（生徒・保護者・教職員）の評価に「乖離（ギャップ)」がある項目

・**「家庭学習の習慣化」**生徒は授業で「わかった」という達成感を感じ、教員も「授業改善」に手応えを感じています。一方、保護者の「家庭学習の習慣化」についての評価は他の項目に比べ低い数値なっています。

・**「情報の共有・発信」**学校は「学校だよりや HP で発信している」と自負していますが、保護者の「教育目標や学校経営方針の理解」の数値には乖離（ギャップ)」が見られます。

保護者の皆様、地域の皆様へ

学校評価は、生徒・保護者・教職員が「理想の学校」を共有するための対話であると考えています。今回いただいたご意見を真摯に受け止め、これを「より良い長町中学校」を創るためのスタートラインとし、教職員一同、一丸となって教育活動に邁進してまいります。日頃の教育活動を客観的に見つめ直し、令和８年度の経営計画を策定してまいります。今後とも、変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

なお、授業アンケート、学校評価結果の詳細については学校ホームページに掲載します。